

2017板橋Cityマラソン 3月19日(日) 日本陸上競技連盟公認

板橋Cityマラソンコース(公財) 日本陸上競技連盟公認

東京マラソン2017 2月26日(日)



今年第20回の記念大会となり、ゲストは昨年引き続き土佐礼子さんと、新たに瀬古利彦さん、増田明美さん、秋山清仁さん、アネネバラリンピックの金メダリストである高橋勇市さんと豪華な顔ぶれとなりました。

参加者は全体で約1万6千人超、うちフルマラソンだけでも約1万5千人という大盛況ぶりでした。好天に恵まりましたが、風が強い時間帯があり、フルマラソンでは帰路が向かい風となりランナーを苦しめました。レースはトップと2位がわずかに7秒差でゴールするという熾烈なデッドヒートで観客を楽しませてくれました。

メイン会場では各競技の表彰式のほか、瀬古さんと増田さんのトークショーや各団体によるパフォーマンスなどが行われました。会場全体では協賛企業・団体によるブース・飲食店や、初の出展となる足湯が大人気で、競技に参加しない人も楽しめるイベントでした。



【救護班】救護班は9名で担当しました。ゴール後に足など疲労して歩けないランナーを救護所に搬送しましたが、大きなケガなどは無く、風が強い状況でしたが無事に終わりました。



【江戸川支部】例年より気温が高く、救急搬送が増加すると予測していましたが、ゼロでした。しかしリタイア者数は例年の倍近くとなりました。支部の皆様のご協力のおかげでトラブルもありませんでした。

【墨田支部】強風の大会になりましたが、救護にあたりましたスポーツ推進委員は、選手を励まして再走させたり、時に救急車搬送もありましたが、リタイア選手の介添えをしたり、頑張りました。

【堀切支部】スポーツ推進委員は3名での活動でした。救護所のスタッフはランナーに熱い声援を送っていました。人が人や体調の悪くなった人が来た時には、一致団結して対処しました。

【西新井支部】天気に恵まれ、いつもより気温が上がったせいか、復路の棄権者が昨年よりかなり多く感じました。6名のスポーツ推進委員のチームワークで従事できたと思います。

【足立支部】復路33km付近に位置し、ランナーが体力の限界と闘いながらぎりぎりゴールを目指す地点で、医療スタッフと共にスポーツ推進委員も全力でランナーを後押しし、力を合わせて頑張れたと思います。

【北支部】往路3・6km復路38・6km地点に位置し、行きはフオローで帰りはアゲパストの風でのラストスパートでした。ランナーには厳しい暑さとは思われましたが比較的落ち着いた一日でした。

【誘導班・浮間舟渡駅等】電車が到着する度、数百名のランナーが会場へ向かっていきました。警察等の協力もありスムーズに誘導出来ました。昼過ぎからは救護の応援に入りました。強風でしたがリタイアしたランナーは少ない気がしました。

【表彰班】ステージ前に集まった方と、立位と座位のふるさといたばし体操から楽しくスタートしました。表彰式では各種目受賞者が、区長をはじめ表彰プレゼンターとゲストの瀬古利彦さん、増田明美さん、土佐礼子さんなどと記念撮影をしました。

東京都地域スポーツ支援研修会

高輪区民センター 1月28日(土)

講義では「ロンドン・リオのオリ・パラ大会に学ぶスポーツ実施率70%に向けたスポーツに親しむまちづくり」をテーマに原田宗彦氏(早稲田大学スポーツ科学学術院教授)の講演がありました。

内容は、スポーツの振興をするにはスポーツに親しむまちづくりが必要で、思わず歩きたくなる、走りたくなるまちづくりを行い、緑豊かな環境で平均寿命を全うするようにしていきたいと思います。

トークセッションでは、「2020年大会以降の地域スポーツを考える」をテーマに、新宿区、台東区、大田区、杉並区、江東区のスポーツ推進委員の登壇者が、各区の現状や活動、取り組みについての発表がありました。



NPO 法人志村スポーツクラブ・プリムラ 理事長 浅見宗弘

平成19年に「志村スポーツクラブ・プリムラ」が誕生してから丸10年になります。この間、多くの皆様に支えられながら今日まで来られたことに感謝を申し上げます。

始まりは中学校の部活動をサポートするために、文科省の推奨する総合型地域スポーツクラブ構想を利用しようとスタートしました。当初は学校と協議を重ねて指導者の派遣などを行っていました。その後、活動場所の確保や安全対策、講習会の開催など、中学校とスクラムを組んで進めていました。

最近では近隣小学校のスポーツテスト補助員派遣や学校行事サポート、区事業の応援など多岐にわたりプリムラを利用いただいております。会員も小学生から80歳代の方まで160名が一緒になってプリムラを盛り立ててくださっています。現在は卓球、フットサル、フラダンス、ゴルフ、ボウリング、HIPHOPの6種目ですが、皆様のご要望を伺いながら常に新たな活動を目指しています。

平成28年度課題別研修会 調布市文化会館たづくり 12月17日(土)

「東京オリンピック・パラリンピック教育」とスポーツ推進委員の関わりについてをテーマに折本昭一氏(東京都教育庁指導部オリンピック・パラリンピック教育主任指導主事)の講演がありました。内容として、都内の小中学校では、年間35時間オリピック・パラリンピック教育について授業を行っています。教育プログラムの愛称を「ようい、ドン」とし、東京2020大会を、子供たちの人生において重要な機会と捉え良いところを伸ばし、弱いところを克服するための取り組みを推進するという事でした。その後、大塚雅一氏(墨田区スポーツ推進委員協議会副会長、千本木勘博氏(小金井市スポーツ推進委員協議会顧問)の二人から活動や取り組みなどの事例発表がありました。どちらも授業の時間を使って学校で教育支援を行っていたとのことでした。それらの活動を通じてボランティア精神や、障がい者への理解など教育支援をしていくことは大切であると思えます。



ランナーを見守るコース整理員